

二年後の自分へ三つの誓い

山形県尾花沢市立尾花沢中学校

一年 本間 遼 平

二年後の僕、中学校最後の夏休み、どう過ごしている？ 夏休みの課題に追われながらも、甲子園大会をテレビで観戦して、三年後は自分も…なんて夢をふくらませていたりして。一つ君に聞きたい。中学校の部活動はどうだった？ 精一杯がんばった、楽しかったと胸を張って言えるか？ そして、三つの誓いは守れたか…？

僕は野球が大好きだ。だから、中学校の部活動は絶対に野球部と、入学する前から決めていた。家族からは、

「野球だけでなく、他の部もじっくり見学して、自分に合っていると思える部に決めるように。」

と言われた。僕には野球が合っていないとも言いたいのか？ 確かに僕は運動は苦手だ。でも野球が好きだということでは、誰にも負けないつもりだ。

体験入部の期間、とりあえずすべての部を見学したが、やっぱり野球ほど楽しく、やってみたいと思えるものはなかった。そして、予定通りに野球部に入学した。

グラウンド十周のランニング、ストレッチ、塁間ダッシュ三十本、キャッチボール、バッティング練習、守備練習、走塁練習。野球部の普段の主な練習

メニューだ。野球の練習としてはごく普通の内容なのかもしれないが、僕にとっては本当にきついものだった。

まず何より、最大の難関が、一番最初のランニングだ。何といっても走ることが苦手な僕は、みんなと一緒にスタートしても、一周過ぎあたりからすでに集団から脱落。どんどん周回遅れとなり、最後は独りぼっちで走り続けることになる。僕の走る姿は歩幅が小さく、みんなには歩いているように見えるらしい。時々、

「遼平！ 歩くな！ 走れ！」

と先輩にしかられる。だが自分では精一杯走っているつもりなので泣きたい気持ちになる。それでも、ランニングをクリアしなければ次の練習メニューに進めないのだから、とにかく黙々と走り続けるしかない。

入学したばかりのころはこれだけで疲れ切ってしまう、家に帰ると玄関に入ったとたん倒れ込んでしまつて、なかなか立ち上がれなかった。家族は、僕が走ることと苦労していると察してくれて、

「どんなスポーツでも、走ることは基本。みんなについていけないのなら、自分のペースで走るしかない。でも最初からあきらめないで、ついていくよがんばることも大事だぞ。自分で決めたんだからな。」

と声をかけてくれた。

わかってはいる。自分で決めて入学した野球部だ。自分で決めた以上は弱音は言いたくない。走ることにどんなにつらくても、グローブを左手にはめ、ボールを握れば、やっぱり野球は楽しいと思えてくる。こんな楽しいことはやめられない。だからがんばろうと思えるのだ。

最近では、三周ぐらいいまでは何とかついていけるようになってきた。この調子だと、来年は脱落する

ことなく十周走れるようになるかなと思う。そうなれるように努力したい。「チームのみんなと同じペースで練習メニューをこなすことができるようになること。」一つの誓いである。

二つ目の誓い、「バッティングをうまくできるよになること」。足の遅い僕が打席に立ち、出塁するために、デッドボール、フォアボールという手はあるが、何よりも余裕をもって走り、セーフになるだけの長打を打つことだと思ふ。今までは、「悪球打ちの遼平」などと言われ、どんな球でもバットを振って、当たればラッキーだった。ハイカローか、インコースかアウトコースかなど、よく考えもせずバットを振ってしまった。これからはしっかりと選球眼を養い、確実に点につながるバッティングができるようになりたい。

そして三つ目は最終目標「三年生の総体にレギュラーとして出る」。しかも、試合に出ることはもちろんだが、一つ一つの技術でも自分が一番になりたい。今は、どの技術でも自分が一番下手だと思っている。上手になるためには、監督、コーチの助言を素直に聞き入れ、上手なチームメイトの動きをよく観察し、学び、自分の練習に生かしていくことだ。声を出し、体を動かし、誰よりも積極的に練習に取り組もうと思ふ。

二年後の僕、待つてろよ。君が胸を張って「がんばった」と言えるように、今の僕が、一つ一つのことに全力で向き合つて、大きく成長してみせるから。

作文を書くに当たって

中学校の部活動。家族からは、柔道や剣道をすすめられたが、僕は大好きな野球がしたいと、意志を貫き通した。自分で決めたことなので、何か一つ結果を残したいと思ひ、目標をたてた。目標に向かって部活動がんばるため、自分へあてた応援メッセージ。